令和7年第3回平川市議会 一般質問（葛西勇人議員）解説スライド

なぜ平川市にはファミレスはないの？

「駅前まちづくり」から考える、私たちの町の未来



Gemini Notebook

単なる「食事の場所」ではなく、日々の暮らしの質に関わる課題



「共働きで疲れた日、気軽に外食できる場所が欲しい…」



「運動会の後など、市内で気軽にに親子で集まれる場所がない…」



「若い世代が定住したくなるような、魅力ある町になってほしい…」

全国展開のファミレス誘致は、利便性向上・若年層の定住・地域交流の促進に直結する市民のリアルな願いです。

Gemini Notebook

平川市内の全国チェーンファミレス店舗数は「0」。市の認識は？

0

店舗

現在、平川市内に全国展開のファミリーレストランは存在しません。

市の認識

- 意義は強く認識：生活利便性の向上、若者の定住促進、交流の場として期待。
- 特定の店舗誘致を個別に検討している状況にはない。

企業側の論理

- シビアな採算判断：「この町に進出して利益が出るか」をマーケティング調査で判断。
- 隣接エリアの壁：弘前市や黒石市と商圏が重なっており、単独での出店評価は厳しい。

Gemini Notebook

【診断】平川市はファミレス出店の条件を満たしているか？

◎/○ クリアしている条件

- ◎ 立地・視認性：国道7号・102号など幹線道路沿いの条件あり（○）
- ◎ 駐車場スペース：郊外型立地なら普通車20台以上の確保が可能（○）
- ◎ 昼夜の交通量：国道沿いは1日5,000台以上の目安に近い（○）
- ◎ 競合店舗：現状、市内に近接する同業態の過密がない（◎）
- ◎ 土地の確保：一部空き地・空店舗で対応可能（○）

▲ 厳しい条件

- ▲ 周辺人口・商圏：中心部以外では半径2〜3km圏内1万人以上の確保が厳しい（▲）
- ▲ 地元自治体の協力：税制優遇や空店舗紹介などの施策が未整備（▲）
- ▲ 雇用人材の確保：若年層が少なく、10~30名規模のスタッフ確保に課題（▲）

郊外の「土地」はあるが、中心部の「人（商圏・働き手）」が足りないのが最大のネック。

Gemini Notebook

出店を阻む「最大の壁」は何か？

出店したい理由

- 良い立地（国道沿い）
- 競合が少ない



出店を見送る理由

1. 圧倒的な「商圏人口」の少なさ
2. 車で十数分走れば「弘前市」に飲食店が多数立地

経済部長の答弁の通り、「人の流れの少なさ」と「弘前市という強力な隣接商圏」が、企業が二の足を踏む根本原因です。単に土地を用意するだけでは解決しません。

Gemini Notebook

【発想の転換】「お願いする」から「選ばれる町」へ

✕ これまでの発想

The Old Way



「空き地があるから来てください」



「採算が取れない（人の流れがない）から行きません」

停滞

これからの戦略

The New Strategy



「市が本気で駅前を整備し、活気と人の流れを作ります」



「この町なら将来性がある！出店したい！」

葛西議員の提言

「当市の活力こそが出店判断に直結する。この町に将来性があると思ってもらえるシグナルを発信することが重要」

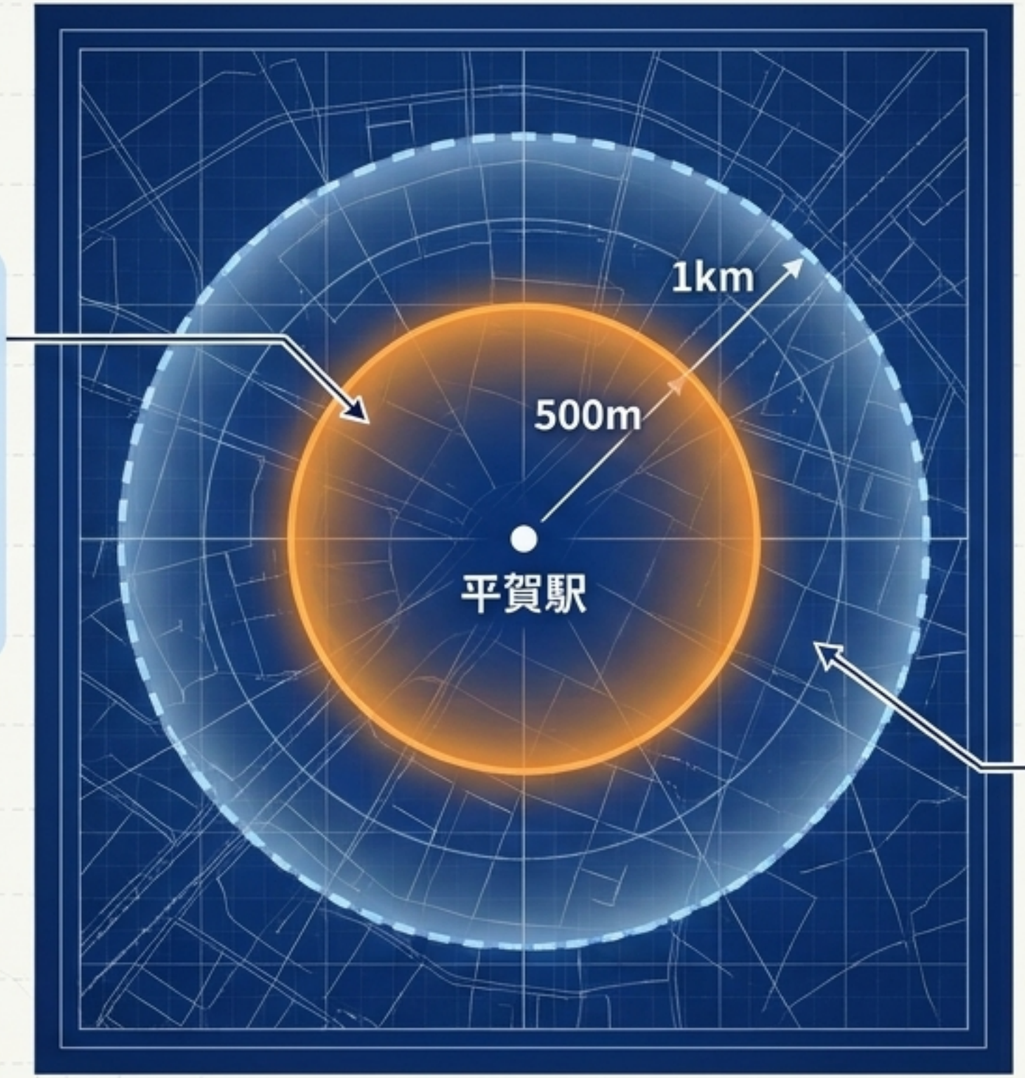
ファミレスを呼ぶための第一歩は、まず「中心市街地（駅前）を本気で整備する姿勢」を示すことです。

Gemini Notebook

解決策の舞台：「平賀駅周辺まちづくり基本構想」

コアエリア（重点的検討域）：
平賀駅 ～ 市役所本庁舎の中間地点付近

目的：
駅前のにぎわい・交流を生み出す拠点の機能強化



回遊エリア（対象範囲）：
文化センター、図書館、陸上競技場、イオンタウン平賀などを含む

目的：
主要施設資を結ぶ「人の流れ」を面的にぎわいを創出

目的：
主要施設を結ぶ「人の流れ」を形成し、面的なにぎわいを創出

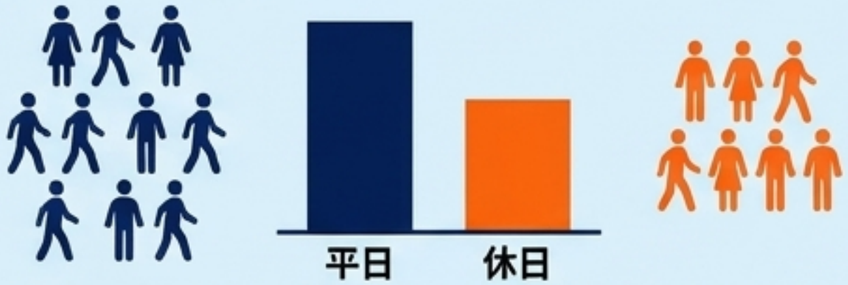
みらい戦略室によれば、飲食機能の充実にぎわいづくりの重重要要素。まずはこのエリアで、多様な世代が集う活気ある駅活気ある駅周辺の実現に向けた構想が進んでいます。

Gemini Notebook

データで見る、平賀駅周辺エリアの「現在地」

滞留人口（歩行者の動き）

（国のRESAS・令和6年）



- 休日よりも平日の方が多い（特に駅前通り）。



- 世代別では60代以上が過半数。30代以下は全体の2割以下に留まる。

Insight：若い世代が駅前に留まる理由（目的地）が不足している。

車両交通量・混雑度

（全国道路・街路交通情勢調査・令和3年）



駅前通り

駅前通り：24時間交通量 約6,700台 / 混雑度 0.69〜0.79（比較的低水準）



県道109号弘前平賀線

（参考）県道109号弘前平賀線：約13,000台 / 混雑度 1.09（混雑傾向）

Insight：駅前通りの交通量にはまだ余裕があり、新たな動線を引き込む余地がある。

Gemini Notebook

にぎわいを「能動的」に生み出す3つの戦略提案

中心市街地活性化



Pillar 1

❶データの継続的活用

歩行者・車両通行量を定期的に調査。勘に頼らず、データに基づいた空間整備や店舗配置の政策判断を行う。



Pillar 2

❷ランドマークの整備

平川らしさを生かした「農産物の産直施設」を提案。市外からも人を呼び込む、集客の強力な起爆剤（目的地）を作る。



Pillar 3

❸物流・交通の新たな動線構築

現在検討中の「スマートインターチェンジ」を起点に活用。イオンタウン～松崎工業団地～尾上農工団地をつなぐ人・モノの流れを形成。

Gemini Notebook

成功事例に学ぶ、まちづくりの正しいサイクル

大型店の郊外進出による空洞化の危機から、中心市街地活性化を成功させた「八戸市」の事例（第4期基本計画）。
歩行者通行量を最重要指標に据え、以下のサイクルを回し続けています。



平川市もこの知見を得るため、今年度内に先進自治体への
視察を実施し、基本構想に反映させる予定です。

Gemini Notebook

今後のスケジュール：選ばれる町へ、動き出す平川市

[現在～今年度内]

- 先進自治体（八戸市等）の視察と知見収集
- 多角的な議論を通じた「平賀駅周辺まちづくり基本構想」の策定（年度末）

[新年度以降]

- 策定された基本構想に基づく、各種まちづくり事業の順次推進
- 法に基づく「中心市街地活性化基本計画」の策定も視野に

「ファミレス誘致」の第一歩は、企業に「将来性がある」と思われる魅力的な町をつくること。点（店舗）ではなく面（まち全体）で活気を生み出す、平川市の新たな設計図にご期待ください！

Gemini Notebook